

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	守山市立吉身保育園
代表者氏名（管理者）	園長 大西 美幸
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
定員（利用人数）	本園 150名（163名） 分園 25名（23名） いずれも2019.10.31.現在
施設・事業所所在地	本園 守山市吉身二丁目6番61号 分園 守山市吉身三丁目2番26号
T E L	本園 077-582-4477 分園 077-583-3667
F A X	本園 077-582-4477 分園 077-583-3667
電子メール	yoshimi_enchou@rakuwa.or.jp
ホームページアドレス	http://www.rakuwa.or.jp

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	2019年12月9日と12月11日

評価の概要

○総合評価

吉身保育園は昭和46年に開設され、公立保育園として40年余の歴史を刻んできた。平成22年4月には、守山市の指定管理者制度に基づき、社会福祉法人洛和福祉会が受託することとなり、平成26年7月には市の乳児保育枠増員政策により吉身小学校内に定員25名の乳児保育施設が開設され、吉身保育園の分園として運営を受託し今日に至っている。

乳児保育の育児担当制、幼児保育では「たてわり保育」をベースにして、幼児部門のみならず医療分野、高齢者分野でも活躍している運営母体法人の指導支援も受け、伝統を生かした保育に磨きをかけている。本年4月から園長が転勤になり、今まで主任保育士を務めていた方が園長に就任し、全職員と共に運営受託後10年目を引き継ぎ、伝統を大切に地域有志の協力や保護者による愛園活動等を得ながら、下記目標を掲げて活動している保育園である。

「あたたかい思いやりの心をもった子ども」「自分の考えをもって行動できる子ども」「生き生きとした強く明るい子ども」「人権を大切にする心を育てよう」という子どもの姿を目標にして、前に進んでいる保育園である。（(過去6か年間の保護者アンケート肯定回答の主要指数参照)

調査年度 項目	H26	H27	H28	H29	H30	R1
アンケート回収率 本園	67%	64%	68%	71%	76%	70%
分園	77%	82%	91%	57%	91%	100%
園やクラス、子どもの 様子の伝達は？	80%	83%	79%	94%	94%	93%
	94%	94%	100%	100%	100%	100%
園や保育に意見・苦情を 伝え易いか？	37%	44%	56%	63%	66%	81%
	71%	71%	76%	92%	68%	78%
園の保育に満足して いますか？	77%	77%	79%	89%	92%	
	82%	83%	86%	100%	91%	

(上段は本園、下段は分園の数値。斜線はアンケート項目から除外されたので入手出来なくなった)

○特に評価の高い点

1、育児担当保育、たてわり保育形態の保育実践を通して、保育士間の連携と認識共有により、園児の人と人とのつながりや育ちあいが豊かに育まれる保育を継承し発展させている。

- ・乳児保育では、泣いたり笑ったり等の表情で欲求を伝える乳児のサインを的確に受け止めるために、「育児担当制」をとり、一人ひとりの子どもの期待・希望・要求等の気持ちに寄り添い、タイミングよく応えることで情緒の安定が図れ、自分の気持ちを安心して相手に伝える意欲や行動につながっている。玩具で遊んでいた子が保育士の声に振り返り、「○○・・・・」と何やら言いながら四つん這い姿勢になり、満面の笑みを浮かべて近づいて行く姿がある。この方式を維持するために、全職員が協力し合っている。

- ・現在では各家庭が核家族化の進行や地域の子どもの自主的な集まりが見られなくなって来ていてい

る中で、当園のたてわり保育実践は貴重な存在である。年長の子が年下の子を思いやったり、いたわったりの姿がみられ、まさに調査時遊戯室でのコンサートごっこの楽器演奏会では、どの年齢も一生懸命で、5歳児は4歳児に、4歳児は3歳児に、最後は3歳児が2歳児に各種楽器の演奏を手を取って教えている中で、下の子は尊敬の気持ちを抱くと共に“見てまねて学ぶ”様子が見て取れ、このシステムを常に継承出来る配慮が保育士たちの工夫で息づいている。

育児担当制で育った園児たちが3歳からたてわり保育で、さらに新しい世界で子育てが前進し、養護と教育一体化の素晴らしい実現が、諸所に見られ、子ども達の元気な声や笑顔が満ち溢れている。

2、食育の取り組みを全職員で推進している

- ・毎月給食だよりを配布し園独自のメニューで提供している。各クラスに炊飯器を置き、湯気やごはんの炊ける臭いを感じ食べる意欲につなげている。子どもたちが楽しく食事ができるよう各地の郷土料理を味めぐりとして紹介し、12月は高知県めぐりで、ひじきのサラダを提供している。また、園児が育て収穫した食材を給食に使うなどの食育にも努めている。毎月家族宛に給食献立表を発行する内容など、保育士とも連携をとりあいながら食育に取り組み、毎回手作りおやつを心掛け、保護者の関心も高くメニューを家庭でも使用する等、園の食育活動は本園・分園共に100%の評価を得ている。

3、地域ボランティアと強い提携関係を維持発展させている

- ・当園でお世話になった孫たちの祖父母が中心になって結成しているボランティア・グループ・ハッピーさんは、現在12名の登録で年間10回園のカリキュラムに組み込まれた活動を行っている。行事前後の打合せや評価を行い次回活動に活かしている。子どもたちも来園を楽しみに待っている。我々調査員が訪問してもハッピーさんが来てくれたよーと喜んでくれる子どもたちである。
- ・絵本の読み聞かせ会とも継続的な関係が出来ており、楽しみにしている子ども達と共に、保育士にも参考になる活動だと喜ばれている。

4、本園の努力について

- ・定員を10%弱増加した園児を受け入れながら、乳児組、幼児組それぞれの持ち分を消化し、きめ細かい連携プレーや保護者との連絡・コミュニケーションに努力を払われていることは、子ども達がゆったりとした雰囲気の中で伸び伸びと過ごしながら、我々調査員という高齢者が入っていても温かく関心をもって話に来てくれる姿が証明してくれている。

これは保護者と我々との関係でもお互いの挨拶をする中で同じことを感じたのは、園と保護者との関係から生まれてくるもので、嬉しく受け止めたい。

保護者アンケート結果を見ると、回収率70%は、一般的に平均率であり問題があるわけではないがアンケート様式が今年は少し手間のかかる様式に変更したために起因するのではと考えており、次年度から改善すべきものと思っている。

各項目の評価で見ると、17項目中80%以下の項目は1項目だけであり、88%以上の項目が10項目となっている。この結果は、まさにこの10年間の当園の努力の結果であり、保護者からの高い評価に感謝しつつ、これをベースに新年度に向けて園長以下全職員の意思結集により、新しい保育園像を目指して、スタートにつくことを期待したい。

5、分園の努力について

- ・建築物そのものが小学校として作られたものだけに、0～2歳児にはふさわしくないものは自然であったが、年々の努力で改善が積み重ねられてきた。
- ・今では教室だけでなく、庭園や広い運動場、その外縁の自然に親しみ、園児たちの活動分野が広がってきている。生徒達にも保育園が馴染みになり、各年齢層から子どもたちに声かけがしてもらえるようになって、幅広い人たちとの出会いを経験することが出来て伸び伸びと遊べるようになってきた。
- ・さらに本園との連携もスムーズに運び、いずれ本園に進級することを前提に、分園の子ども達が本園の園庭や遊具を利用する頻度も自然に高まり、特に分園の2歳児が本園の3歳児に移行していくことを前提に連携体制の充実が図られてきている。
- ・少人数である利点を生かし、一人ひとりに寄り添う保育実践が実を結び、保護者のアンケートで17問中、100%の満足評価数が6項目、70%に至らない項目は2項目だけで、高い評価を得ていることは、園長、主任以下全職員の日常活動の結果であり、自信をもって保育の質向上を更に上げる事を期待したい。

○改善を求められる点

1、事故防止対応について

- ・事故報告書・ヒヤリハット記録ファイルは専任看護師のリードにより、回収率、データ分析手法は向上してきている。

しかし「一件の重大なトラブル・事故・災害の裏には、29件の軽微なミス、そして300件のヒヤリハットがあるとされる」ハインリッヒの法則から、生み出された手法だが、「軽微な事故やエラーが発生したら、その原因をしっかりと調査し、改善していくことがいかに重要かを再確認させてくれる」法則でもあると理解して欲しい。

データ分析とその共有を中心に据えて、もう一段のレベルアップを期待したい。

2、分園へのお願い

- ・昨年に引き続き0～1歳児の入口ドアを引き戸にするよう、守山市との折衝に努めてほしい。
- ・音の出る遊具を備えて欲しい。
- ・暗い廊下で子どもを膝にのせて絵本を読み聞かせている保護者が見られたが、分園ならではの工夫を編み出してほしい。

3、保護者アンケートの質問項目 Q6 について

- ・今年度から新しくなった全国共通版を使用したけど、その結果を見て気づいた点が2ポイントあった。

① 各質問項目に、数行の文章記述スペースを設けているので、今までのナルク版と比較すると、時間がかかることから、回収率が下がる要素とされないかを心配していたが、分園の100%は、これにも拘らず全家族からの回答が得られたことは高く評価したい。本園の70%という結果は、対象が163名と大きな数ゆえ、前年まで少しずつ高まってきて76%までになっていたことを考えると、70%に戻ってしまったのは、影響したのではと心配をしているところである。

まだ数園の結果しか得ていないが、現時点では、回答される保護者目線からの修正ナルク版で今後取り組んだ方が良いのではと考えている。

② 質問項目 Q6 保護者からの苦情や意見に対して、園から「懇談会」「園だより」や「個別面談」などを通して説明があるか？を問う新しい質問項目である。

直近の一年では、園側や第三者を経ての苦情提出は一切ないとのことを聴取したが、保護者の評価は、本園で 59%、分園で 52%と目立つ低い数値となっている。本項目を分析すると、苦情や意見を直接保育士や園長・主任に相談し、解決をし・納得をした比率が肯定率となっていて、何もしていないが、そういう苦情や意見が出されてうまく解決している事実を知らない保護者が存在している比率が本園 41%、分園 48%と理解できる。園側としては相談・苦情・意見等に出会った場合は、即時ベスト対応し解決したリストから纏めを作成し、毎月の「園だより」の決まったスペースを作り、プライバシーに配慮しつつ皆に公開する事が望ましいと考える。

Q5 の質問項目「園の保育について、意見や意向を伝えることができますか」には、本園 81%分園 78%の肯定率を示していて、上記分析に参考になっているので、この項目は毎年努力を積み重ねてきている送迎時や懇談会での保護者との面談を、すべての保護者に行き渡る様努力をする重要ポイントであるので、さらなる努力の継続を期待したい。

4、 事業者のコメント

洛和福祉会での 10 年を迎えました。これも保護者や地域の皆様のご支援、ご協力のおかげだと思っております。吉身保育園は、育児担当保育やたてわり保育を取り入れながら、子どもたちが安心して過ごし、のびのびと保育園生活が送れるよう日々保育に取り組んでいけるよう、今後も努力していきたいと思っております。今回の評価から、高い評価をいただいた点は今後も引き続き職員と共に努力してまいります。また、改善点につきましては、事故報告書やヒヤリハットの原因調査を行い、改善できるよう工夫し子どもが心地よく過ごせる環境づくりをしていきたいと思っております。そして、苦情、意見、相談等が保護者から出た場合もおたよりなどで説明を行い、公開をしていきたいと思っております。今後も保護者や地域の皆様のご支援ご協力を行いながら、安心安全な園づくりに努めていきたいと思っております。